■第３回　小金井市中間支援組織設立検討委員会　議事録■

◆**日時**：平成 26 年 3 月 27 日（木）　14:00～16:00
◆**場所**：小金井市役所第二庁舎 8 階 801 会議室
◆**出席者**：委員　内田雄二、木下美智子、益田智史、林大樹（委員長）、斉藤浩、清水勉（副委員長）、髙橋金一、長島剛、森田眞希、川合修、今井啓一郎、大森康雄
◆**事務局**：市民部経済課　當麻光弘（経済課長）、田嶋隆行（経済課産業振興係長）
小金井市商工会産業振興プラン推進室　黄金井の里（立川室長・千葉）
：運営事務受託　特定非営利活動法人カッセ KOGANEI（黒崎・木藤、他５名）
◆**傍聴者**：3 名

◇　議事要旨　◇

１．委員長挨拶

略

（資料確認および報告）

事務局より、配布資料の確認を行うとともに、3 月 10 日（月）14:00～16:00「黄金井の里」会議スペースにて委員有志の出席を得て、作業グループを開催した件、また 3 月 18 日（火）に市民から参加者を集いシャトー2Ｆイベントスペース（本町）にて、本中間支援組織の検討に係る「第 1 回こがねい産業振興・オープン会議」を約 30 名の参加者を得て開催した旨報告した。

２．議事

（１）産業振興のイメージおよび中間支援組織が出来た際に実現したいこと

林委員長：今回の会議にあたって、事前に各委員に宿題を出させて頂き、各々が思う産業振興と中間支援組織のイメージや実現させたいことについてまとめて頂いた。今日はこのイメージの共有を目指したいと考えている。

内田委員：中間支援組織で行う事柄を当初からあまり固める必要はなく、また中間支援組織は市の上位（基本）構想とは別に独自性を発揮して支援という裏方の仕事をやればいいと思う。それが小金井らしい中間支援組織の方向性を決めることになる。若い人が起業できることと同時に、消費者に支持されるような組織であることが必要。

木下委員：多くの人、皆が中間支援組織に関わりあうこと、楽しくやること、それを産業振興の視点で捉えることが重要と思われる。

益田委員：この場において価値観の共有を図るべきではないかと考えている。毎日 100 万円の稼ぎが出なくとも、1 万円を毎日稼げることが環境づくり、皆が安心して商売できるといった価値観の共有を図ることが産業振興のイメージにつながるのではないか。

今井委員：これまで商店会の人間として、日々活動してきたつもりなので、改めてということでは書くことが難しかった。もともとある程度は商店街の力というものを信じているつもりである。

川合委員：行政の立場からみると、街が明るくなっていく過程を見せること、現在中間支援組織たる機関として期待されている「黄金井の里」がなぜ機能しにくいのか、そこに着目することが重要ではないかと考える。また市や商工会のような公的機関の一部としての位置づけをすると、今後行政としての公平性等その組織の役割は限定されてしまうように感じる。

森田委員：産業振興という言葉自体が限定的なように思う。地方発世界へという事例が多く出て来ているなかでローカルルールのようなものが確立出来るかが重要だと思う。

長島委員：国、都、市、民間企業それぞれが産業振興における役割を担っていると思われる。金融機関であるわが社そのものを産業振興の機関の一つだと考えている。会社によるお客様への中間支援、創業支援、成長支援、この３つを重視し、地域の企業の数を減らさないようにすることを重視している。

髙橋委員：これまで「黄金井の里」とともに共同でいろんな事業を行ってきた。これから小金井の農業も本気度が試されていく段階である。例えば小金井で土地を継承して農業を新たに始めようとした場合、JA だけでは対応しきれないと思われる。農工大の関係では支援組織もあるが、内容が高度であり、組織も大きく、事業の規模も大きい。他自治体に見られるような「すぐやる課」のような組織、「ワンストップサービス」的な組織が農業における次世代への継承への手助けとなると思われる。

斉藤委員：産業振興のイメージといえば、やはり自分の商売上のことがメインになる。既存農業と商業の連携のように市内、市中で経済が回る構造、例えば街の中での小さいいろんな輪、グループが絡み合っているような構造が、いくつも複層的、重層的にできればよいと思われるし、そうであることが必要である。それを支えるための中間支援組織、コンシュルジェ役、企業の決算等、非常に難しい分野のお手伝い役としての役割が期待されていると思われる。

林委員長：芸術産業論、文化経済学という学問分野があって、そもそもなぜ最低限の生活とは関係ないこれらの分野において産業が起きるか、どうしたら起こせるかということを研究対象としている。これらの対象となる芸術・文化においては消費者の側で「享受能力」を身に着けないと、お金を出すことにならない。学びの街とは学ぶことで人生が豊かになるというニーズであるし、食べていくという目的だけの経済では小金井を支える産業にはならないと考えている。文化の域までを経済の範囲となるような考えをとるべきである。そのためにはより一層の消費者同士の草の根的な広がりが必要であるし、それらをつなぐための中間支援組織である必要があると思われる。

（２）実現したいことを可能にする中間支援組織に求められる機能について

議論の前提として事務局より、過日開催のオープン会議のまとめに関する配布資料に基づいて、会の雰囲気、参加者の構成について説明した。

同会議における３グループに分かれて実施したワークショップについて、一つ目のお題である小金井のＳＷＯＴ分析、二つ目のお題である小金井の産業振興のイメージの主なご意見について報告を行った。

一点目の小金井のＳＷＯＴ分析については、「強み」として公園等の自然の多さや、教育環境の良さ等を挙げるご意見、「弱み」としては法人税・税収の少なさ等を挙げるご意見、また「機会」についてはゴミ問題を逆手にとった今後のリサイクル事業発展の可能性等のご意見、「脅威」については少子高齢化、農地の減少、近隣市の発展、ベッドタウンであることによる人口の流出入の多さ等を挙げるご意見があったことを説明した。

二点目の小金井の産業振興イメージについては、情報発信力の強化や人と人とをつなげる機能・イベントの強化、「こきんちゃん」をもっと利用した各種のアイデア等、個性にあふれる多様な意見が出たことを紹介した。

森田委員：オープン会議に参加したが、意見の内容に男女差があるのに驚いた。男性が制度面から入るのに対して、女性は生活者的視点が優先している。

内田委員：自分もオープン会議に参加したが、参加者の熱気を非常に感じた。これらの人々が中間支援組織にどう関わりあえるか、その想いの受け皿となり得るか重要な課題である。

今井委員：自分も参加したが、今まで御縁のない面白い人々が沢山いた。今後一緒に何かできないかと感じたところである。

清水副委員長：参加者にはどんな人々が多かったのか。

事 務 局：自ら商売をされている人も多かったが、それでもどちらかというと消費者的な考え方を持つ人が多かったように思われる。

ここで事務局より資料８「地域ポータルサイトの参考事例」、資料１０「中間支援組織に求められる機能について」について説明を行った。

林委員長：中間支援組織に求められる機能を挙げた場合にもその優先順位が必要となってくる。ただその順位づけは改めて行うべきことと考える。今日は期待する機能を沢山挙げることとしたい。

髙橋委員：農業に関して言えば、引退している人と、現在仕事をしている人とのニーズは違う、しかも土地の所有者は引退している方が多い。今後の農業は環境に適合できたものだけが生き残ると言い切れる。中間支援組織に期待するものは大きい。

大森委員：何か困ったことがあるとき、「黄金井の里」では分からないことが多い。市役所にその機能を期待するのは組織上限界がある。市役所でないよろず相談所、そして今ある既存の組織をつなぐ役割が求められていると考える。

斉藤委員：街のことに関する情報収集と、いわば「お見合い所」、「おせっかいおばさん」、そして信頼感の上に立つコンサルティング、コンシェルジュ機能が求められていると感じる。

髙橋委員：中間支援組織で働く「人」の問題が重要だと考える。人によっては魂が入らない状態となり得るのではないか。

大森委員：あまりに「人」に頼りすぎた組織であってもいけないと感じる。当初気合が入りすぎても、年月が経過したとき、持続しているかどうか課題が残る。長続きする仕組みが必要だと思う。

清水副委員長：「黄金井の里」を題材として現在出来ていること、出来ていないこと、望むものを挙げることができないか。自分としては「黄金井の里」に一層の情報発信力、企画力を望んでおり、こうした機能を強化したいと考えている。

林委員長：中間支援組織的機能をもつ現在の商工会、黄金井の里、観光協会においてやっていること、やっていないこと、そして新組織の役割分担を図解、マトリックス等を用いてみるのも一計かもしれない。

森田委員：例えば国立に行くと、楽器店や雑貨店など、個性的な店があり、そこに寄った後、オープンカフェに立ち寄ったり、街を歩くだけでだいぶお金を落とすということがある。小金井ではこのような経済構造がなく、暮らしがコーディネートされていくような実感がない。ここぞ中間支援組織の必要性ではないか。

林委員長：森田委員のような生活感覚に基づいた感覚が整理できれば今後非常に有意義である。

益田委員：「桜まつり」は観光協会のためにお客がくるのではない。あくまで桜が主役である。

音楽イベントもそうであるが、楽しいかどうかが鍵である。事業の回数に着目してもよくならない。自己満足でしかないと思われる。真に市民が参加できるイベントを望みたい。伝統的にやっているから、また前例踏襲でやっているということでは発展性がないと思う。

今井委員：新しい中間支援組織設立にあたっては、なんとなく現在の「黄金井の里」をベースとして考えることも想定される。その場合、組織上どこが上になるか、独立した形になるか、あるいは役員、評議員の人選で結構変わってくると思われる。

内田委員：次回の４回目委員会は折り返し点となる。当初のプログラム案と変わってきている部分もあるので、次回議事については早めに決めておくべきでないか。

事 務 局：今後の議題等を調整の上、委員の皆様にメールにてお知らせするとともに、プログラム案を更新してお示ししたい。

３　その他

事務局より、事務連絡として、第４回検討委員会を４月 21 日（月）14:00～16:00（８０２会議室）、また第４回検討委員会のための作業グループを４月８日（火）14:00～16:00（６０１会議室）に開催することを説明した。

以上